



重要文化財 称念寺本堂  
保存修理現場見学会

平成 26 年 9 月

主催 宗教法人 称念寺

奈良県教育委員会

## ●寺院および本堂の歴史

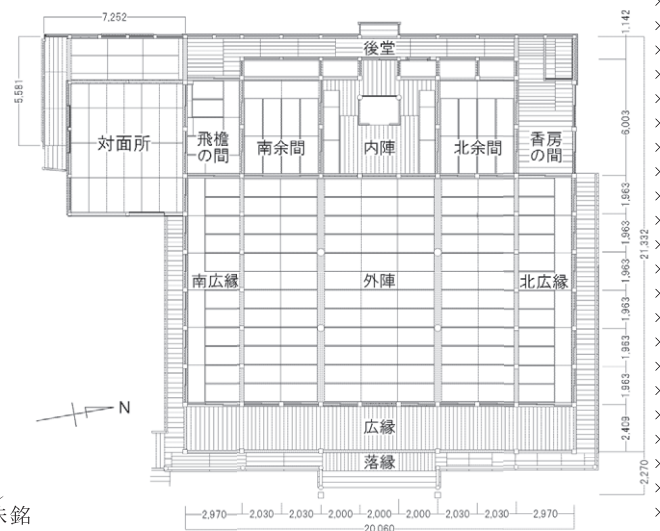
称念寺は櫃原市今井町に所在する浄土真宗本願寺派の寺院です。天文年間（1532-55）に道場が建てられ、その後、御坊としての整備がなされたと考えられており、寺内町今井成立の中核を担ってきました。

本堂は桁行約 20m、梁間約 21m、  
いりもやづくり  
入母屋造、本瓦葺の建物で、建立時期は、南西に取り付く対面所（元禄八年（1695）よりも前に建てられたことが明らかであることから、江戸時代前期の建立と考えられています。

また称念寺文書や本堂に残る墨書・銘文により、文政・天保年間（1818-43）に大きな修理があり、屋根葺替のほか、堂内の修理も行われたようです。



本堂 正面（解体前）



本堂 平面図



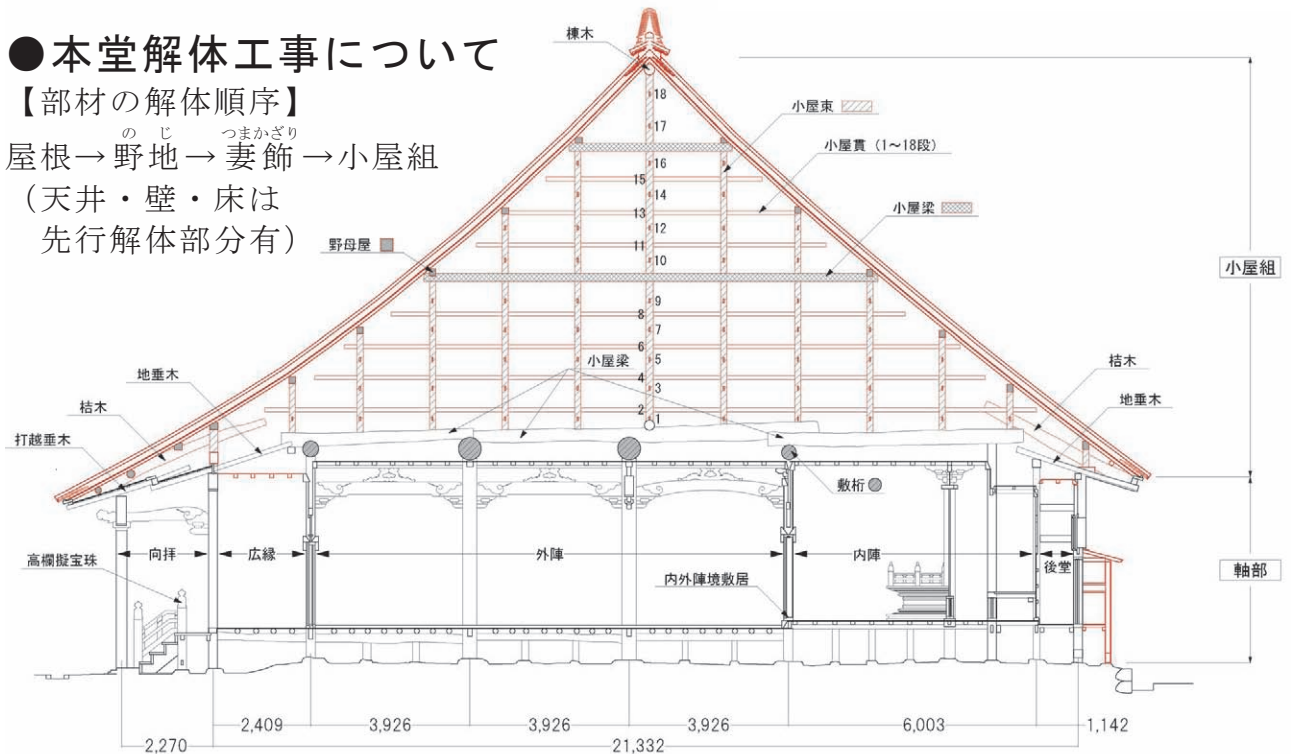
年号  
左；高欄擬宝珠銘  
右；内外陣境敷居銘

## ●本堂解体工事について

### 【部材の解体順序】

屋根 → 野地 → 妻飾 → 小屋組

（天井・壁・床は  
先行解体部分有）



本堂解体の進捗状況  
（赤線部分は解体済）

## 【屋根】

屋根は本瓦葺で、丸瓦と平瓦により構成されていました。葺土を入れた総重量は、約 200 t にもなります。最上部の棟積み端部にあった、獅子口瓦には、「文政八年（1825）」の銘文があり、この頃屋根の葺替えがあったことがわかります。

## 【小屋組】

小屋組は屋根を支えている部分です。称念寺では、高さ 9 m に及ぶ巨大な小屋組でした。その構造は、小屋梁に小屋束を立て、束の中間部分を貫で繋ぎ、束の最上部は野棟木・野母屋で繋いでいます。また、桁行・梁行方向に筋違も使用され、縦横斜めに部材が組み上げられていました。

## 【妻飾】

妻飾は、屋根の側面の部分をいい、建物の横顔を印象づけます。称念寺では虹梁、こうりょう 臺股、かえるまた 束で構成されていました。この妻飾は解体した結果、後補のものと判明しています。

## 【造作】

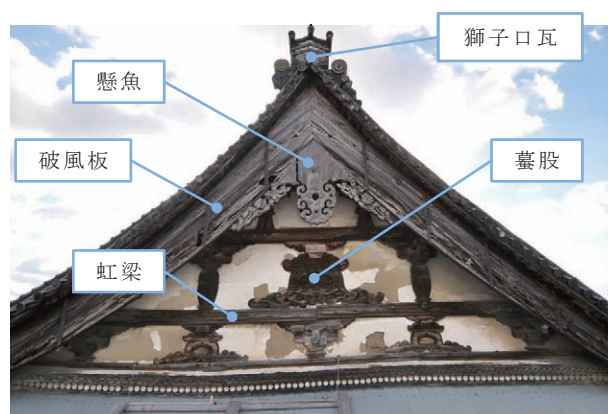
外陣は、中央に円柱が 4 本立ち、円柱同士を彫刻が施された虹梁形差物で繋ぎ、天井は格天井という荘厳な空間です。外陣外周の柱に残る痕跡等から、格天井、虹梁形差物、円柱は後補と判明しています。

外陣の奥に続く内陣は、床を一段高くし、中央に須弥壇と来迎壁、その両脇奥に仏壇を構えています。内陣両側の北余間・南余間も奥に仏壇を構えています。

外壁は、側面から背面、軒裏にかけて土壁で塗込められていました。今回の工事では、土壁を撤去し、下地の竹から編み直して修理をします。



小屋組 南東から



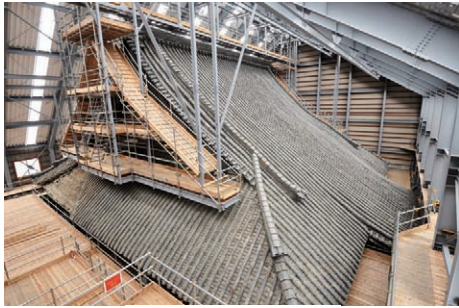
妻飾（北面）



外陣内部



本堂背面 北西から



屋根解体前



屋根瓦解体中



屋根葺土解体中



屋根解体完了



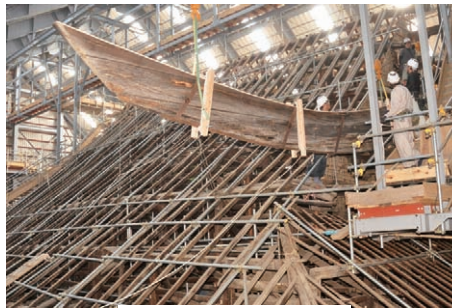
小屋組解体中（上段）



小屋組解体中（下段）



臺股解体中



破風板解体中



妻壁解体中



壁土解体中



天井解体中



仏壇解体中

【本堂の解体状況】

●これまでの経過

今回の保存修理工事は、称念寺からの委託を受け、奈良県教育委員会文化財保存事務所が行っています。事業は、平成22年4月に着手し、平成31年12月に竣工の予定で、総事業費は約16億円となる見込みです。

平成24年までは、本堂周辺の建物を解体してきましたが、平成25年6月に

本堂の覆屋が完成してからは、本堂の本格的な解体とそれに伴う調査、写真撮影をしています。

本堂の解体順序は、内部の造作類と同時に上部の屋根から解体し、順次下方に向かって進めています。

来年には、内陣の軸組を残して全て解体し、地面が露出する予定です。

奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所

〒630-8502 奈良市登大路町30 tel 0742-27-9865 fax 0742-27-5386